

【参考資料】 新たな公共交通システム 各案のメリット・デメリット等

(1) メリット・デメリット

	メリット	デメリット
A案 コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> ルート・ダイヤが固定のため、わかりやすい。 バス停に行けば、時刻表に定められた時刻に乗ることができる。(予約不要) 定時性が確保されていることで、他の交通機関とのアクセス性が高い。 多くの人が乗ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> バス停が幹線（広幅員）道路に限られ、バス停までのアクセス距離が長くなる傾向がある。 ルートが定まっており、一部地域では目的地へ行くのに時間がかかる場合がある。
B案 定時路線型 乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ルート・ダイヤが固定のため、わかりやすい。 バス停に行けば、時刻表に定められた時刻に乗ることができる。(予約不要) 狭い道路まで運行できるため、自宅からバス停までの距離が短くなる傾向がある。 定時性が確保されていることで、他の交通機関とのアクセス性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスに比べ車内が狭く、他の乗客や運転士との距離が近い。 車両が小さいことから一度に乗車できる人員が制限される。
C案 デマンド型 乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ドア・ツー・ドアに近い移動が可能であり、利用者の移動の負担を軽減できる。 予約に応じてルートを設定できるので、多様な移動ニーズに対し柔軟に対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者登録や乗車予約が必要となる。 一部の利用者にとってはスマホアプリや電話での予約が難しい場合がある。 乗合の利用者が多くなると、目的地に到着する時刻にばらつきが出る可能性がある。 時間帯によって、利用が集中し、予約できない場合がある。
D案 グリーンスロー モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ルート・ダイヤが固定のため、わかりやすい。 バス停に行けば、時刻表に定められた時刻に乗ることができる。(予約不要) 狭い道路まで運行できるため、自宅からバス停までの距離が短くなる傾向がある。 低速走行のため安心して利用でき、風景などを楽しみながら乗車できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 路線が短く、降車後の最終目的地までの（乗継）移動が発生する。 車両が小さいことから一度に乗車できる人員が制限される。 車両に雨風が吹き込む可能性があり、天候に左右される可能性がある。

(2) 収支の想定

	初期費用(千円)	運行収入(千円/年)	運行経費(千円/年)	収支(千円/年)
A案 コミュニティバス	103,300	20,700	43,600	▲22,900
B案 定時路線型乗合タクシー	14,300	4,760	15,000	▲10,240
C案 デマンド型乗合タクシー	14,800	4,200	26,700	▲22,500
D案 グリーンスローモビリティ	12,900	3,100	15,600	▲12,500

(令和6年10月時点で、新たな公共交通システム導入に係る調査を委託している事業者が試算したものです。運行案が決まりましたら、詳細は改めて検討いたします。)